

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年10月28日

上場会社名 日清食品ホールディングス株式会社

上場取引所 東大

コード番号 2897 URL <http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 安藤 宏基

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務経理部長 (氏名) 横山 之雄

四半期報告書提出予定日 平成21年11月9日

配当支払開始予定日

TEL 03-3205-5111

平成21年11月27日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	178,513	2.4	12,395	7.5	15,750	14.5	10,417	82.2
21年3月期第2四半期	174,412	—	11,526	—	13,754	—	5,716	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	88.78	88.74
21年3月期第2四半期	46.76	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	404,722	281,099	67.9	2,374.82
21年3月期	408,729	285,569	68.4	2,287.21

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 274,639百万円 21年3月期 279,629百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
22年3月期	—	25.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	378,000	4.4	26,500	12.5	31,000	7.8	18,500	16.4	159.97

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 —社 (社名) 除外 —社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 127,463,685株 21年3月期 127,463,685株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 11,816,914株 21年3月期 5,206,128株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 117,330,700株 21年3月期第2四半期 122,259,657株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 連結業績予想につきましては、平成21年10月16日に「業績予想の修正に関するお知らせ」にて変更しています。

2. 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき合理的であると判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性その他要因が内包されています。従って、実際の業績は、上記予想と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は、【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益の大幅な減少や雇用情勢の一段の悪化に見られるとおり、厳しい状況が続いています。また、個人消費についても一部に持ち直しの兆しが現れているものの、本格的な回復にはほど遠く、依然低い水準にとどまっています。

このような中、当社グループは、食品産業の根幹である食の安全性確保を最優先課題と位置付け、独自開発の残留農薬・動物用医薬品の検査システム等を活用し、使用原材料のチェックを行うことにより、消費者の皆様へ安全・安心な製品を提供できるよう努めるとともに、品質面では、今期よりスタートしたプロジェクト「うまい！をきわめる。全麵革命」を実施するための設備の改善を行いました。販売面においては、様々なニーズに対応する商品戦略や、積極的な販売活動を行ったことが功を奏し、当社グループの中核となる国内即席めん事業を中心に、全般的に好調に推移しました。

その結果、当四半期連結累計期間の業績としては、売上高は、1,785億13百万円（前年同期比2.4%増）となりました。利益面では、営業利益は、国内において退職給付関係費用等の増加があったものの、売上の順調な回復と、販売費の適正な使用、更には、海外、とりわけ北米地域での収益力の回復もあり、123億95百万円（前年同期比7.5%増）となりました。経常利益は、一時的な円安による為替差益の増加もあり、157億50百万円（前年同期比14.5%増）となり、当四半期純利益は、法人税等の減少により、104億17百万円（前年同期比82.2%増）となりました。

(1) 事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

① 即席めん及び付随する事業

即席めん事業では、販売政策面において、消費の三極化に呼応したブランド施策として、①ブランド価値や質を求める層に対しては主力ブランド製品（コア・ブランド）の品質強化（めんや具材の強化）、②価格を最重要視する層には値ごろ感と安心感の強い製品（カンパニー・ブランド）のラインナップの拡充、③楽しさや新規性を求める層には新機軸の新製品（コンセプト・ブランド）の提案を実施してまいりました。

ブランド価値や質を求める層には、より満足感を感じていただけるよう、第1弾として「カップヌードル」で具材を本格感のあるコロコとしたチャーシュー＝コロ・チャーに変更（4月）、第2弾では「シーフードヌードル」に貝柱を加えて旨みを大幅にアップ（7月）、9月には第3弾となる「カップヌードル カレー」にカレー専用コロ・チャーを投入するなどの具材強化を行い、お客様の好評を得ています。

また、めん質の更なる向上のため、新技術を駆使した製品開発に力を注ぎ、「うまい！をきわめる。全麵革命」キャンペーンを展開しています。具体的には「日清麵職人」シリーズで、生めんのようなコシ、のどごしが味わえるめんに改良（8月）し、「日清のどん兵衛」シリーズでは昨年の「びんそば」に続き、うどんの本格感を上げるための新製法「太ストレート製法」により、どん兵衛史上で最高に太い「ぶっとうどん」に改良（9月）しました。明星食品（株）でも、「スーパーノンフライ製法」で食感を高めた「究麵（きわめん）」がヒット、めんの新技術を駆使した製品が売上に大きく貢献しました。

即席袋めんも主力ブランドの「出前一丁」「日清焼そば」が前年実績を維持するなど堅調に推移しました。

一方、価格を最重要視する層に対しては、「スープヌードル」や「日清御膳」、明星食品（株）の「評判屋」等の従来シリーズに加えて、「日清ソース焼そば」、めんが1.5倍の「日清の大盛屋」等お手頃価格の製品ラインナップを充実させ、販売を伸ばしました。

また、楽しさや新規性を求める層には、「ミスト・エアードライ製法」「オリジナル3層麵製法」により、おいしさと低カロリーを両立させた「カップヌードル ライト」が低カロリー志向の消費者に受け入れられ、新提案の「レンジ製品群」と併せて、新しい需要の掘り起こしに成功し定着してきています。

海外では、北米地域を中心に、引続き、既存品が好調な売上の伸びを示し、全体の増収に貢献しました。

チルド・冷凍食品事業に関しては、日清食品チルド（株）で、チルドめんのおいしさを生かした「つけ麺の達人」シリーズが、また、日清食品冷凍（株）では、「冷凍日清スパ王」シリーズが売上の伸びした他、前期の第3四半期から（株）ニッキーフーズが連結対象になったことにより、増収となりました。

この結果、即席めん及び付随する事業の売上高は1,594億38百万円（前年同期比3.2%増）、営業利益は112億14百万円（前年同期比9.0%増）となりました。

② その他の事業

日清シスコ（株）については、ビスケットやチョコフレック等の菓子類を中心に大きく売上の伸びを一方、日清ヨーク（株）の清涼飲料等が減収になるなどによって、その他の事業は減収となりました。

この結果、その他の事業の売上高は190億74百万円（前年同期比4.1%減）、営業利益は15億31百万円（前年同期比2.2%増）となりました。

(2) 所在地別セグメントの業績は次のとおりです。

① 日本

日本国内では、コア事業である即席めん事業を中心に全般的に好調な売上を記録しましたが、退職給付関係費用等の増加もあり、営業利益は減益となりました。

この結果、売上高は1,505億2百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益は96億55百万円（前年同期比22.3%減）となりました。

② 北米

北米地域では、既存品のカップめん及び即席袋めんが好調な売上を記録し、増収となりました。また、営業利益は原材料価格の低下等により収益が改善され、増益となりました。

この結果、売上高は149億93百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は15億16百万円となりました。

③ その他の地域

その他の地域では、昨年7月から実施した香港地域での即席袋めん及びカップめんの価格改定の影響等により、販売数量の減少による減収はありましたが、営業利益では増益を確保しました。

この結果、その他の地域の売上高は130億18百万円（前年同期比8.1%減）、営業利益は15億53百万円（前年同期比46.9%増）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、主に設備投資の増加に伴い、有形固定資産が44億1百万円増加するものの、受取手形及び売掛金の減少34億48百万円や、有価証券及び投資有価証券の減少60億84百万円により、前連結会計年度末から40億6百万円減少し、4,047億22百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金をはじめとする流動負債が98億79百万円減少するも、長期借入金や退職給付引当金等の増加の影響による固定負債103億43百万円の増加により、前連結会計年度末から4億63百万円増加し、1,236億23百万円となりました。

純資産は、利益剰余金やその他有価証券評価差額金等が増加するものの、自己株式の取得による減少により、前連結会計年度末から44億70百万円減少し、2,810億99百万円となりました。

この結果、自己資本比率は67.9%、1株当たり純資産は2,374円82銭となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、資金という。）の残高は725億95百万円となり、前連結会計年度末と比較して11億3百万円の増加となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は174億88百万円（前年同期比45億50百万円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益154億22百万円及び減価償却費42億79百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の増加は18億46百万円（前年同期は231億97百万円の資金の減少）となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出134億1百万円、有形固定資産の取得による支出58億20百万円による減少があった一方で、投資有価証券の売却による収入181億36百万円、有価証券の売却及び償還による収入55億2百万円による増加があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は196億93百万円（前年同期比160億41百万円の減少）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出186億65百万円や配当金の支払額30億56百万円によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の通期連結業績予想につきまして、売上高は、個人消費の一部持ち直しの兆しが現れてはいるものの、本格的な需要の回復には至らず、3,780億円を見込んでいます。一方、利益面においては、北米地域における原価低減に伴う収益改善や国内における販売費の適正な使用等の影響により、営業利益265億円、経常利益310億円、当期純利益185億円を見込んでいます。

なお、平成21年7月31日の第1四半期決算短信で発表しました通期連結業績予想との差異は次のとおりです。

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり当期純利益 (円 銭)
前回発表予想(A)	393,500	23,000	27,000	16,200	140.08
今回発表予想(B)	378,000	26,500	31,000	18,500	159.97
増減額(B-A)	△15,500	3,500	4,000	2,300	—
増減率(%)	△3.9	15.2	14.8	14.2	—
前期実績(平成21年3月期)	362,057	23,552	28,748	15,890	129.98

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

該当事項はありません。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しています。

- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	73,346	65,902
受取手形及び売掛金	41,008	44,456
有価証券	14,966	17,647
商品及び製品	8,062	8,235
原材料及び貯蔵品	6,952	6,990
その他	7,109	15,504
貸倒引当金	△335	△466
流動資産合計	151,109	158,270
固定資産		
有形固定資産		
土地	47,027	46,943
その他(純額)	58,505	54,188
有形固定資産合計	105,533	101,131
無形固定資産		
のれん	3,977	4,327
その他	742	452
無形固定資産合計	4,720	4,779
投資その他の資産		
投資有価証券	126,730	130,134
その他	17,494	15,122
貸倒引当金	△866	△709
投資その他の資産合計	143,358	144,547
固定資産合計	253,612	250,458
資産合計	404,722	408,729
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	37,805	43,163
短期借入金	2,061	4,636
未払金	17,515	19,066
未払法人税等	4,417	7,425
その他	17,054	14,442
流動負債合計	78,854	88,733
固定負債		
長期借入金	10,095	5,380
退職給付引当金	19,280	15,260
その他	15,393	13,785
固定負債合計	44,768	34,425
負債合計	123,623	123,159

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	49,755	49,755
利益剰余金	243,113	235,052
自己株式	△33,015	△14,355
株主資本合計	284,976	295,575
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,063	△477
土地再評価差額金	△7,532	△7,532
為替換算調整勘定	△5,867	△7,935
評価・換算差額等合計	△10,336	△15,946
新株予約権	209	—
少数株主持分	6,250	5,940
純資産合計	281,099	285,569
負債純資産合計	404,722	408,729

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	174,412	178,513
売上原価	97,381	98,699
売上総利益	77,031	79,814
販売費及び一般管理費	65,504	67,418
営業利益	11,526	12,395
営業外収益		
受取利息	827	657
受取配当金	1,060	775
有価証券売却益	—	872
持分法による投資利益	598	687
為替差益	—	409
その他	311	476
営業外収益合計	2,798	3,880
営業外費用		
支払利息	25	103
為替差損	313	—
その他	231	422
営業外費用合計	570	525
経常利益	13,754	15,750
特別利益		
固定資産売却益	345	10
貸倒引当金戻入額	—	120
投資有価証券売却益	137	—
その他	23	4
特別利益合計	506	135
特別損失		
固定資産売却損	554	3
固定資産廃棄損	—	228
投資有価証券評価損	1,264	49
関係会社整理損	—	181
その他	200	1
特別損失合計	2,019	463
税金等調整前四半期純利益	12,241	15,422
法人税等	6,448	4,748
少数株主利益	76	256
四半期純利益	5,716	10,417

(第2四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
売上高	87,555	87,780
売上原価	50,063	48,655
売上総利益	37,491	39,125
販売費及び一般管理費	33,136	34,675
営業利益	4,355	4,449
営業外収益		
受取利息	523	443
受取配当金	80	24
有価証券売却益	—	226
持分法による投資利益	347	412
為替差益	236	—
その他	183	380
営業外収益合計	1,372	1,486
営業外費用		
支払利息	1	36
為替差損	—	154
その他	210	293
営業外費用合計	211	484
経常利益	5,516	5,452
特別利益		
固定資産売却益	345	8
貸倒引当金戻入額	—	68
その他	8	6
特別利益合計	354	83
特別損失		
固定資産売却損	554	3
固定資産廃棄損	—	164
投資有価証券評価損	214	18
関係会社整理損	—	181
その他	115	—
特別損失合計	884	367
税金等調整前四半期純利益	4,986	5,169
法人税等	2,744	1,224
少数株主利益	65	117
四半期純利益	2,176	3,827

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,241	15,422
減価償却費	3,704	4,279
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	3,090	3,971
持分法による投資損益 (△は益)	△598	△687
売上債権の増減額 (△は増加)	927	4,099
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△995	423
仕入債務の増減額 (△は減少)	945	△5,604
未払金の増減額 (△は減少)	△2,191	△2,005
その他	97	△2,090
小計	17,221	17,808
法人税等の支払額	△6,628	△8,032
法人税等の還付額	—	5,057
その他	2,345	2,655
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,937	17,488
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,912	△1,541
有価証券の取得による支出	△2,000	△0
有価証券の売却及び償還による収入	3,603	5,502
有形固定資産の取得による支出	△6,538	△5,820
有形固定資産の売却による収入	1,223	35
投資有価証券の取得による支出	△24,913	△13,401
投資有価証券の売却による収入	10,337	18,136
連結子会社の株式取得による支出	△2,150	—
その他	152	△1,065
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,197	1,846
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	—	△2,595
長期借入れによる収入	—	5,505
自己株式の取得による支出	—	△18,665
配当金の支払額	△3,056	△3,056
少数株主への配当金の支払額	△15	△57
その他	△580	△823
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,652	△19,693
現金及び現金同等物に係る換算差額	△802	830
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△14,714	472
現金及び現金同等物の期首残高	78,774	71,491
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	631
現金及び現金同等物の四半期末残高	64,059	72,595

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

	即席めん及び 付随する事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	77,603	9,951	87,555	—	87,555
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	1,471	1,471	(1,471)	—
計	77,603	11,423	89,026	(1,471)	87,555
営業利益	3,682	803	4,485	(130)	4,355

当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)

	即席めん及び 付随する事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	78,444	9,336	87,780	—	87,780
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	1,897	1,897	(1,897)	—
計	78,444	11,233	89,678	(1,897)	87,780
営業利益	3,780	676	4,456	(7)	4,449

前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	即席めん及び 付随する事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	154,527	19,884	174,412	—	174,412
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	2,928	2,928	(2,928)	—
計	154,527	22,813	177,341	(2,928)	174,412
営業利益	10,284	1,498	11,783	(256)	11,526

当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	即席めん及び 付随する事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	159,438	19,074	178,513	—	178,513
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	3,849	3,849	(3,849)	—
計	159,438	22,923	182,362	(3,849)	178,513
営業利益	11,214	1,531	12,746	(350)	12,395

(注) 1 事業区分は、製品の種類・性質等を考慮して区分しております。

2 各事業の主な製品

(1) 即席めん及び付随する事業……即席袋めん、カップめん、チルド食品、冷凍食品

(2) その他の事業……菓子、飲料、外食事業

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結会計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	72,232	7,847	7,475	87,555	—	87,555
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	416	—	109	525	(525)	—
計	72,649	7,847	7,584	88,081	(525)	87,555
営業利益又は営業損失(△)	5,163	△1,038	409	4,535	(179)	4,355

当第2四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	74,456	6,939	6,385	87,780	—	87,780
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	365	—	—	365	(365)	—
計	74,822	6,939	6,385	88,146	(365)	87,780
営業利益	3,384	604	536	4,525	(75)	4,449

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	145,501	14,745	14,165	174,412	—	174,412
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	665	—	230	895	(895)	—
計	146,167	14,745	14,395	175,308	(895)	174,412
営業利益又は営業損失(△)	12,424	△1,661	1,057	11,820	(293)	11,526

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	150,502	14,993	13,018	178,513	—	178,513
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	674	—	—	674	(674)	—
計	151,176	14,993	13,018	179,187	(674)	178,513
営業利益	9,655	1,516	1,553	12,724	(329)	12,395

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 北 米……米国、メキシコ

(2) その他の地域……中国、ドイツ、ハンガリー

〔海外売上高〕

前第2四半期連結会計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日）

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	7,928	7,637	15,565
II 連結売上高（百万円）			87,555
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	9.1	8.7	17.8

当第2四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	6,975	6,518	13,493
II 連結売上高（百万円）			87,780
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	8.0	7.4	15.4

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	14,891	14,456	29,348
II 連結売上高（百万円）			174,412
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	8.5	8.3	16.8

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	15,096	13,266	28,362
II 連結売上高（百万円）			178,513
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	8.5	7.4	15.9

（注）1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 北 米……米国、メキシコ

(2) その他の地域……中国、ドイツ

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成21年5月20日及び平成21年5月27日開催の取締役会における自己株式の取得に関する決議に基づき自己株式の取得を行うとともに、ストック・オプション行使による払出し等もあり、前連結会計年度末に比べ、自己株式が186億60百万円増加しています。この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己株式は、330億15百万円となりました。